



↑ 閉校式に出席した歴代の教職員や卒業生など



↑ 「思い出を語る会」で感謝状を手渡される歴代PTA会長代表遠藤悦朗氏（第4代会長）



↑ 童謡「故郷」を合唱する児童



↑ 最後の共栄小学校児童と教職員



↑ 卒業式で別れの言葉を朗読する石村希依さん



↑ お世話になった先生に花束を渡す在校生の2人

また、ホテル日の出岬で行われた「共栄小学校思い出を語る会」では、教育活動推進に尽力された歴代校長代表大垣幸治氏（第20代校長）、歴代PTA会長代表遠藤悦朗氏（第4代会長）に対して閉校事業協賛会から感謝状が贈呈されました。会では、在校生や卒業生、現旧職員が共栄小学校で過ごしてきた思い出などについて語り合い、過去の行事などの写真がスライドショーとして上映されました。

たあと、中垣孝校長から石村希依さんに卒業証書、門傳颯人さんに修了証書が手渡されました。中垣校長は式辞の中で「自分の可能性を信じ、努力することを惜しまずいろいろなことに挑戦し、たくさんの子たちと一緒に勉強や運動に励み、共栄小以上に、楽しい学校、嬉しい学校にしてください。二人が、心も体も元気に大きく成長していくことを心から願っています」と児童にエールを贈りました。

そして、共栄小学校最後の卒業式となる「第70回卒業証書・修了証書授与式」が令和6年3月22日に児童活動室にて挙行されました。厳粛な空気の中、卒業生の石村希依さんが先生に先導され入場。出席者全員で国歌、校歌を斉唱し

母校で培われてきた思い出を胸に、共栄小学校最後の卒業式を終えました。

地域と歩んできた 113年の歴史に幕

明治44年に開校して以来、明治、大正、昭和、平成、令和と大きな時代のうねりを乗り越え、令和5年度現在までに500人以上の児童を地域ぐるみで育んできた共栄小学校の歴史に幕が下ろされました。

昭和30年代後半から40年代にかけて、天候不順や後継者不足による不安定経営の中、離農者が相次ぐなど、過疎化が進み始め、その影響から昭和51年に上雄武小学校、昭和53年に中雄武小学校、平成2年に上幌内小学校が廃校による統合を余儀なくされました。

共栄小学校においても、在籍児童の減少を受け、平成31年2月に「共栄小学校の未来を考える会」を開き、今後の方向性について話し合いが行われました。そして、令和4年4月の第4回「共栄小学校の未来を考える会」において、令和5年度（令和6年3月31日）での閉校が決定されました。令和6年2月25日、共栄小学校で行われた閉校式では、歴代の教職員や卒

業生など100人以上が出席。式典で高橋町長は「在校生の皆さんは、これからの新しい生活を過ごす際にも、共栄小学校で過ごした日々を忘れず、勉学やスポーツに取り組んでください。閉校としても、今までの歴史と伝統が受け継がれ、共栄・中雄武地区のますますの発展を心からお祈りしています」と挨拶。その後、中垣孝校長、石村直樹PTA会長、篠原文教諭に対して豊田教育長から感謝状が贈られました。

最後の在校生となる石村希依さん、門傳颯人さんが「共栄小での学びを忘れず、これからもたくましく歩んでいきます。私たちの「ふるさと」。ありがとう共栄小学校。たくさんさんの思い出はずっと忘れません」とお別れの言葉を群読し、その後、参加者全員で童謡「故郷」を合唱。地域の中に根差し、地域一丸となって児童たちを育んできた共栄小学校との思い出を偲び、会場からは惜しみない拍手が贈られました。